

# 平成 24 年度事業計画書

## 第1 事業推進方針

- 1 設立から四年目、初心に帰り一般社団法人信州あなんトータルマーケティングの設立の目的である、「農業をはじめとする産業の再生と交流人口の拡大による外貨の獲得」と「年金プラス 50 万円構想」が象徴する「地域住民の所得向上」を図るものとする。
- 2 一般社団法人信州あなんトータルマーケティングは、農林産物の生産や特産品づくり、交流人口の拡大などに「取り組む人々への最大限の支援を責務」とし、「行政と住民・民間を結ぶ中間支援組織」としての役割を担い、社員の信頼と期待に応えるべく、新しい事業展開を図るものとする。

## 第2 事業実施計画

### 1 「年金プラス収入 50 万円」の継続

年度	目標	実績
H24	20 人	—
H23	17 人	20 人

### 2 農林産物生産拡大及び出荷販売事業(定款第 2 条第 1・3・6 号事業)

平成 24 年度信州アトム野菜振興計画に基づき、「安全・安心・おいしい・質の良い」、さらには「特徴のあるあなん野菜」の開拓を推進するものとする。

#### (1) 生産振興対策

事業の持続性との発展性、生産意欲と所得向上、さらには信州アトムの野菜に対する信用獲得の観点から価格や消費者ニーズが安定しているキュウリ、トマト、アスパラガス、サヤインゲンなどのいわゆる基幹品目を重点的に継続して推進を図る。

そのために、正しい栽培方法の伝授に努め、品質のレベル均一化のためレベルアップを図る。また、高齢化に伴う品目の偏りや出荷の集中は、新たな需要を開拓により対処する。

#### ア 基幹品目の維持及び拡大

柱となる品目構成を確立するため、引き続きキュウリ、中玉・ミニトマトを重点品目として推進する。

#### イ 夏野菜の生産振興

- ① 基幹品目の生産拡大
- ② 売れ筋品目の研究(基幹品目、新品目)
- ③ 品目別栽培講習会等の実施
- ④ 抑制作型の推進
- ⑤ ハウス栽培の拡大(小面積、生産の安定)
- ⑥ 指定肥料内城菌使用の徹底

#### ウ 特徴ある「安全・安心・おいしい・質の良いあなん野菜」の生産振興

- ① 農薬の適正指導、栽培日誌(栽培履歴書)の提出と職員による適正点検
- ② 新しい品目(米)への取り組み
- ③ 「信州の伝統野菜」との連携
- ④ 学校給食用野菜の推進
- ⑤ 直売所出荷の量産

エ モデルほ場での生産振興

- ① モデルほ場の生産振興 中玉トマト等の栽培、農業体験、食育ほ場の提供
- ② 農閑期の栽培品目の試験(秋～春)
- ③ 新品目、新品種の展示ほ場
- ④ 栽培講習会場として利用

(2) 販売促進対策

これまでは、第一に生産振興中心の事業を推進してきたが、四年目からは宣伝・販売促進等外部へのPRに重点におき積極的な販売促進を図るものとする。さらに量販店との連携をより一層深め、販売拡大を目指し、夏野菜出荷期間外では、直売所出荷が中心となるが品目の充実と品質の向上を図る。また、新たな加工品の開発では規格外の利用や高齢化による集中出荷の緩和を図る。

ア 安全・安心は当たり前、おいしい野菜の出荷販売

- ① 基幹品目の生産拡大
- ② 荷造り術の向上及び均一化 出荷規格の徹底、出荷説明会・査定会等開催
- ③ 指定肥料内城菌栽培による付加価値ある野菜の継続的推進

イ みなみ農業協同組合との連携

ウ 販路の開拓

- ① 学校給食への安定供給
- ② 「安全・安心・おいしい・質の良い」+「特徴ある」=「あなん野菜」の販路開拓
- ③ 販売促進イベント、商談会への参加・宣伝

エ 新たな農産加工品の開発、販売

- ① 農産物加工品の開発(スープ等)

(3) 健康農業の推進

生産者の福利厚生の実施

(4) 生産拡大支援事業

24年度事業費 2,753千円

ア 生産者の維持・拡大

① 生産(出荷)者数計画

年度	生産(出荷)者数	
	計画	実績
H24	95人	—
H23	100人	95人

- ② 若者をはじめとする新規就農者への支援
- ③ 地区及び品目毎の生産者による仲間づくりへの支援

イ 信州アトム生産拡大支援事業(要綱による。)

- ① 指定肥料購入補助事業
  - ・ 24年度補助率 10分の6以内
- ② 重点品目生産経費補助金
  - ・ 対象品目 キュウリ、中玉トマト、ミニトマト
  - ・ 補助内容 接木1本当たり90円、自根1本当たり40円を相当を生産経費に充当
  - ・ 補助対象要件及び限度額あり

ウ 営農技術指導及び安全安心指導(2-(1)-ウによる)

エ モデルほ場設置事業(2-(1)-エによる)

① ほ場及び栽培品目

ほ場名	栽培品目(面積)	計画額
粟野1ほ場	中玉トマト(1.5a)、サニーレタス(4a)他	100万円
粟野2・3ほ場、大島ほ場	その他野菜	

(5) 出荷販売事業

24年度事業費 36,670千円

ア 出荷販売全体計画

- ① 出荷又は販売先
  - 量販店(夏野菜)、JA及びJA直売所(通年)、学校給食(通年)、現金販売他(随時)

② 農産物販売計画  
全体

(単位:万円)

年度	計 画			実 績		
	量販店	その他	計	量販店	その他	計
H24	2,610 万円	312 万円	2,922 万円	—	—	—
H23	2,577 万円	212 万円	2,789 万円	2,551 万円	275 万円	2,826 万円

夏野菜

(単位:万円)

品 目		H24 計画 a	H23 実績 b	増減 a-b	
基幹品目	1 トマト	300	303	△3	
	重点推進品目	2 キュウリ	320	272	48
	重点推進品目	3 ミニトマト	230	225	5
		4 千両ナス	170	174	△4
		5 スイートコーン	110	112	△2
	重点推進品目	6 中玉トマト	340	307	33
		7 ピーマン	180	209	△29
		8 アスパラガス	80	84	△4
		9 ミョウガ	110	103	7
		10 摘果キュウリ	50	36	14
		11 パプリカ	80	76	4
		12 サヤインゲン	120	123	△3
		計	2,090	2,024	66
全品目		2,610	2,577	33	

イ 夏野菜出荷計画

- ① 実施予定期間 7月～10月 毎週火・土曜日を除く週5回 計68回
- ② 生産者への販売状況等の情報発信
- ③ 生産者による消費者への販売促進

3 交流促進・観光振興事業 (定款第2条5・7・8号事業)

24年度事業費 8,198千円

交流促進を図るとともに、町に現にある地域資源を使って新しい商品をつくり出すものとする。

(1) 農家民宿・セカンドスクール推進事業

ア 南信州観光公社との連絡調整及び農家民宿連絡会庶務

アトム手数料の徴収 児童・生徒一人につき100円

イ 受入農家及び受入人数の拡大

- ・ 受入対応の標準化
- ・ 南信州観光公社における占有率の向上

○ 農家民宿拡大計画

年度	受入農家数	受入人数	
		計 画	実 績
H24	34 戸	970 人	—
H23	36 戸	1,070 人	1,072 人
H22	34 戸	1,000 人	902 人
H21	30 戸	1,000 人	1,139 人

ウ 独自企画事業の実施

(2) 「クラインガルテン新野高原」の管理運営事業

ア 町指定管理者としての業務 平成22年度から

イ クラインガルテン新野高原管理組合への一部業務委託

ウ 施設概要

① 場 所

新野大村

② 施 設

滞在型市民農園 20 区画、日帰り農園、管理棟、農機具庫他

③ 年間予定行事

開園祭、野菜栽培講習会、田植体験、自然観察会、ホテル観賞会、納涼祭、稲刈り、収穫祭、星座観賞会、餅つき・しめ縄づくり、雪まつり観賞、新年会 他

(3) 観光振興一般事業

- ア 観光案内一般
- イ 観光ツアー等の開催
  - ・ 農業体験・収穫体験ツアー 他
- ウ 観光物産店への出店
- エ 阿南町商工会との連携

4 特産品販売事業（定款第2条第2・3・4号事業）

24年度事業費 2,908千円

販売促進、販路の拡大に努めるとともに、広告宣伝に工夫をこらし、ニーズを的確に捉えた新たな特産品づくりに挑戦する。

(1) 特産品に関する事業

- ア 新たな特産品（農産物加工品）の試作
- イ 特産品の販売促進及び販路拡大
  - 首都圏等への積極的な出店等を行い、PRと新たな販路拡大を図る。
- ウ 祭り街道おあがりて連との連携
- エ 加工品への参加の呼び掛け

5 共通事業

- (1) 宣伝不足の解消のための販売促進及び情報発信等の充実強化
- (2) 社員の福利厚生の実施

6 事業実施における町との関係

産業の再生及び外貨の獲得による収入の増加を図り、暮らしを豊かにする目的を共有する点において、町と対等のパートナー関係を保つとともに、行政意向を踏まえた事業展開を推進する役割があり、町の施策について、実現可能な事業を積極的に実施するとともに、事業展開にあたり、町に対して行政として実施・支援すべき内容を引き続き働きかけるものとする。